

全国の火山活動状況（1979年1月～3月）

気象庁地震課火山室

気象庁が常時火山観測を実施している精密観測4火山については、昭和54年1月以降3月末までの活動状況を、普通観測13火山とその他の火山については報告をうけたものについて、状況を要約した。火山情報発表状況を第1表に、全国火山活動概況を第2表に示す。

第1表 火山情報発表状況（昭和54年1月～3月）

回数	火山名	桜島	阿蘇山	浅間山	伊豆大島	樽前山	有珠山	三宅島	霧島山
定期		3	3	3	3			1	1
臨時		4				2	1		

第2表 全国火山活動概況
（昭和54年1月～3月）

火山名	1	2	3
桜島	▲	▲	▲
樽前山	△	△	△
有珠山	△	△	△
福德岡の場	△	△	△
諏訪之瀬島		▲	▲

第3表 桜島火山観測資料

月	1979/1	2	3
爆発回数	15	16	7
噴煙回数	28	16	7
地震回数	3510	9863	5950

▲噴火 △異常

桜島

爆発回数、噴煙回数、地震回数の月ごとの推移は第3表のとおり。1月上旬、2月中・下旬、3月上旬に地震が群発し、これに伴い爆発が増加した。しかしそのほかは地震・爆発等も少なく、比較的平穏に経過した。

主な活動

・1月5日には13時36分と14時49分に相次いで爆発した。両者とも気象台で爆発音、空振とも体感せず、爆発地震も5μ、8μと小さい方であったが、噴煙高度は2500m、2800m、噴石も5合目と7合目まで飛散するのが観測された。

当時上空1500m付近では西北西の強い風が吹いていたため、噴出物が桜島口を中心に1.5kmくらい

の範囲に降り桜島口付近では最大径6 cmの軽石や最大径4 cmまでの噴石を含んだ多量の火山灰が降り、垂水市海道のトンネルの南部付近では、小豆大の軽石が降った。また後者の爆発による降下物のため、車両5台以上の窓ガラスが破損した。

- 2月25日03時07分の爆発による地震の最大振幅は14 μ 、爆発音、体感空振とも大で、多量の噴石が3合目まで飛散し、山火事も1か所認められた。

阿蘇山

中岳第1火口は全面湯だまりの状態経過したが、1月16日ごろから2月18日まで短周期微動が発生し、土砂噴出と鳴動を伴いやや活発化の傾向を示した。短周期微動は1月16日～31日446回、2月1日～18日593回発生したが、いずれも微小なものであった。火口縁上では少量の白煙が時々観測される程度で、地下活動も全般におだやかであった(第4表)。

浅間山

遠望観測によれば白煙中量以下の日が多く、噴煙の高さは400m以下であった。地震回数も比較的少なく(第5表)、全般に穏やかに経過した。

第4表 阿蘇山火山観測資料

月	1979/1	2	3
地震回数	19	21	24
孤立型微動回数(0.5 μ 以上)	519	244	862
連続微動平均振幅(μ)	0.1～0.2	0.1～0.2	0.1～0.2

伊豆大島

3月6日00時35分から1分間火山性微動が記録され、3月17日に火山性地震が一時的に増加したほかは特に変りなく、穏やかに経過した。

樽前山(1月22日、2月23日火山情報)

1978年12月中旬から噴煙活動がやや活発となり、山腹に降灰が認められるようになった。1979年に入り地震回数も増加し、降灰が認められた日数も更に増加した。しかし3月中旬以降は地震回数も減少し、降灰も4月中旬に1日だけ認められたにすぎない。火山性地震回数の月ごとの推移は、1月201回、2月427回、3月217回、4月70回、同じく火山性

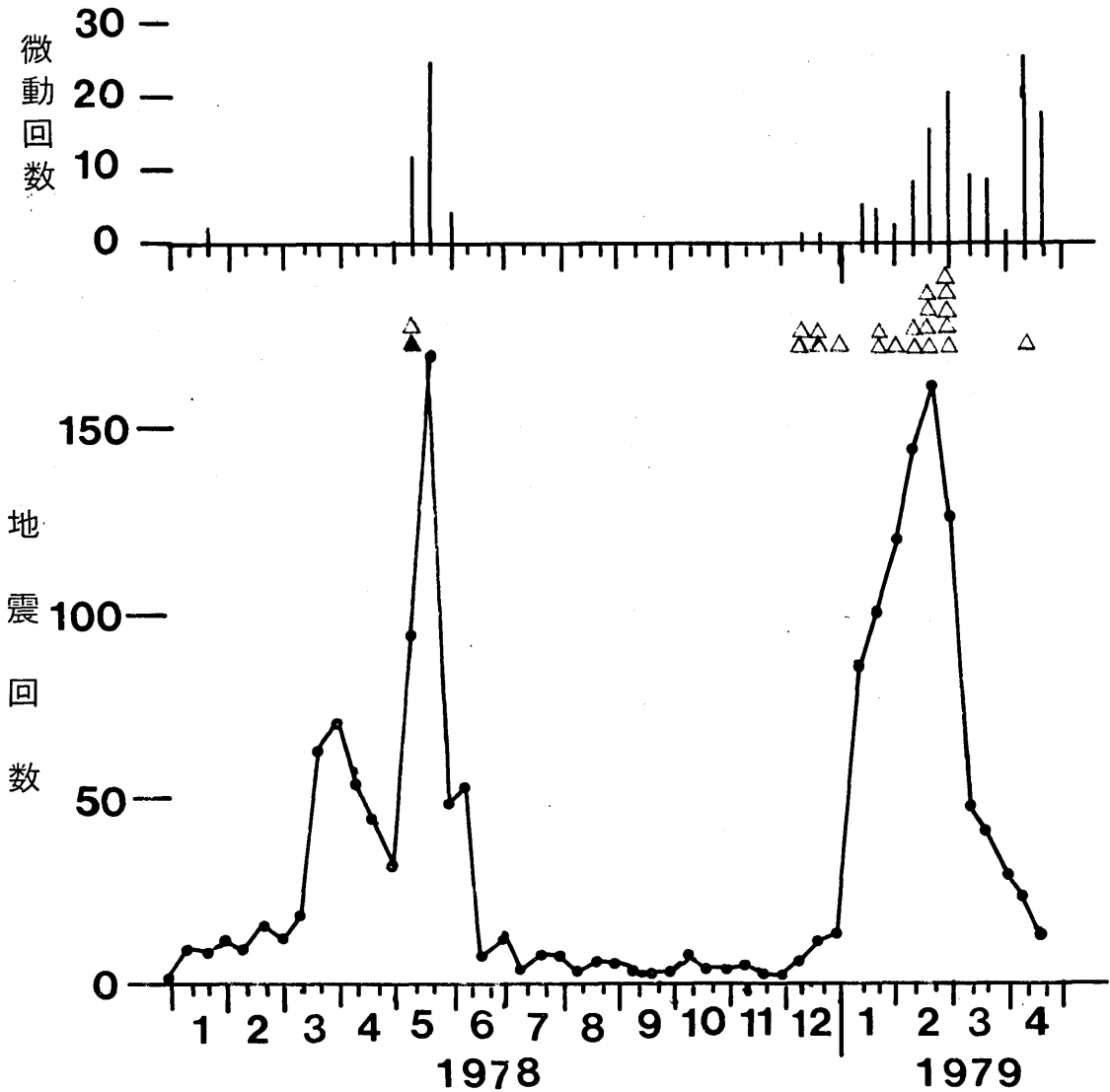
第5表 浅間山地震回数

観測点 \ 月	1979/1	2	3
A	7	10	15
B	156	227	425
C	100	100	232

微動回数は1月12回、2月28回、3月40回、4月45回であった。2月の地震回数427回は1967年7月観測開始以来、月間値として最大となった。それまでの最大は1975年2月の345回であった。

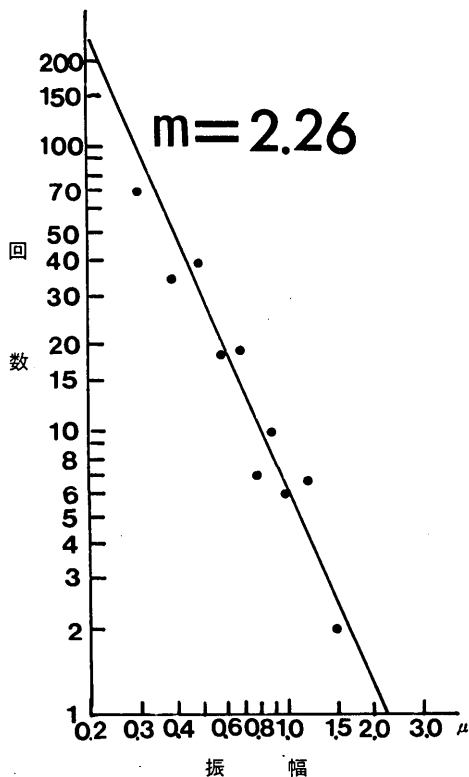
1978年1月以降の経過をみると、1978年5月と1979年2月をピークとする活動形態をなしている(第1図)。いま1978年5月と79年2月について苫小牧測候所の樽前山A点の地震データに

に基づき、石本・飯田の係数 m を求めた結果は、前者で 2.26 (第2図)、後者で 2.24 であった。同様に 1967年10月~74年9月(7年間)の m 値は、1.8 である(第3図)。1978年以降の表面活動の活発化に伴い、平常時に比べ、 m 値の増大が認められたことは興味深い。

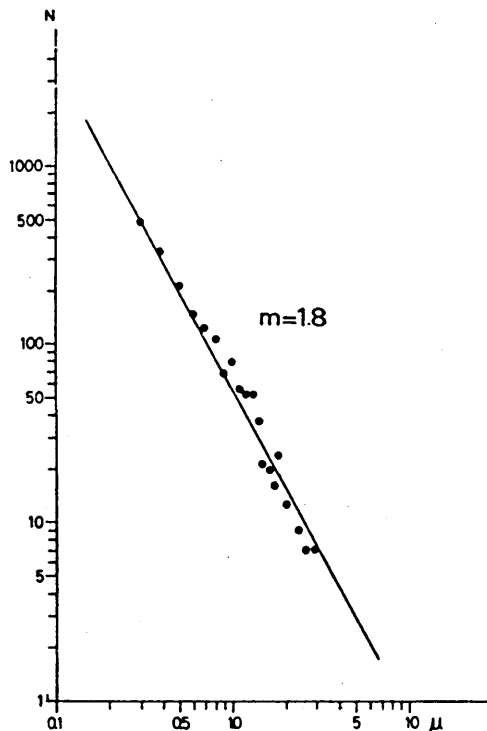


第1図 樽前山火山活動旬別推移(苫小牧測候所による)

▲: 噴火日数
△: 降灰日数



第2図 樽前山A点(苫小牧測候所)による
1978年5月の m 値



第3図 樽前山A点(苫小牧測候所)による
1967年10月~1974年9月
(7年間)の m 値(気象庁)

表面活動の経過

1月5日07時10分から5分くらい火山性微動を記録、6日10時30分、南東斜面に降灰を、10日早朝南斜面に降灰を観測した。1月16日には未明と午後微動を記録したが、16日午前中は吹雪でみえず、午後みえたときは噴煙少量で、降灰の跡はみえなかった。1月22日、23日、27日、2月5日に山頂付近(7~8合目まで)に降灰の跡が認められ、噴煙活動がやや活発化した。これらの降灰は微動と対応のつくものもあった。

2月18日、19日と25日から3月2日まで連続6日間と3月4日、6日、8日に山頂付近に降灰の跡が認められ、一部は雪面を黒くベルト状に5合目付近まで達したものであった。2月26日09時00分から20分間、振幅 0.5μ の微動が記録されたが、山頂は雲のため山麓からはみえなかった。当時付近航行中の千歳航空自衛隊機からの報告によれば、樽前山のドーム南東噴火口(A火口)から09時30分、約 $500m$ の高さに噴煙が上がっていた。なお1978年5月以来、噴火噴煙活動を繰り返しているドーム南東のA噴気孔を、1979年2月23日以降、A火口と呼称することとした(北大との合議による)。

3月8日、樽前山頂付近に降灰が認められた後は、表面活動は静穏に経過していたが、4月13日10時10分~10時50分に火山性微動に伴い、灰黄色の噴煙が高さ $100m$ に上がり、南~南西に流れ、山頂付近の斜面にごく弱い降灰があった。

有珠山（室蘭地方気象台 報告）

噴火は1978年10月27日のあとは引き続き発生せず、噴煙活動も特に異常は認められず、表面活動は平穏に経過している。

室蘭地方気象台の有珠山A点による地震回数、有感回数の旬別推移は、第6表のとおりで、1978年11月以来ほとんど横ばい状態で経過している。

第6表 有珠山地震回数

月 旬	地震回数			有感回数		
	1979/1	2	3	1979/1	2	3
上	765	640	717	128	119	156
中	733	604	723	118	102	131
下	859	582	527	156	108	85
計	2357	1826	1967	402	329	372

秋田駒ヶ岳（仙台管区気象台 報告）

2月27日14時、秋田駒ヶ岳で噴気が出ていたと連絡があったので、3月8日、仙台管区気象台担当官が自衛隊ヘリコプターに便乗し観測した。

それによると、1971年に地熱地帯活発化のみられた地域の雪がとけていて、200×200mにわたって地肌が出ていることがわかった。この地帯からは水蒸気が3本上がっており、高さは15mくらいであった。この地熱地帯は従来からも地熱活動のある地域であり、おそらく毎年春先には、ここに地肌が露出していると思われるが、過去の例との比較は正確にはできない。なおその他の地区は一面雪で、降灰の跡などはなかった。

三宅島（三宅島測候所 3月27日火山情報）

3月23日、雄山の現地観測を実施したが、前回（12月12日）と比較して、噴気温度及び地中温度は特に大きな変化はなく、異常は認められなかった。

火山性地震回数は12月13回、1月4回、2月6回で、三宅島近海の地震も含まれている。

諏訪之瀬島（諏訪之瀬島分校 報告）

1979年1月 噴火なし

2月 噴火（6日、14日、19日、22日）

3月 噴火（11日、12日、13日）

海底火山（海上保安庁水路部 報告）

福徳岡の場では、1月11日（東洋航空観測）、24日、2月8日（ともに海上自衛隊観測）、3月27日（文部省学術調査による）、変色水が認められた。